

## 平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	研究ゼミナールB (Seminar of Study B ) 【西村研究室】		授業コード	L120557
担当教員名	西村 謙司		科目ナンバリングコード	L31205
配当学年	3	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	数週に1回の割合で、建築作品の分析発表が求められます。			
受講心得	何を自分の職務とするか、自身の人生の目標を見定めながら研究室を選択し、それぞれの課題に取り組んでください。			
教科書	なし			
参考文献及び指定図書	磯崎新:『磯崎新建築論集』,岩波書店			
関連科目	専門分野に関連する全科目			

授業の目的	<p>研究ゼミナールでは、自分のもっとも興味のある建築分野を研究している研究室に所属し、その指導教員のもとで、卒業研究につながる基礎的な学習や卒業研究を作成するために必要な技術を習得します。</p> <p>例えば、卒業研究につながる調査や見学、文献やビデオ教材、CADソフト等による専門分野の学習、作品制作や実験あるいはそれらのための様々な準備、資格取得のための勉強会など、指導教員により指導内容は異なります。各指導教員のもとで各自がそれぞれのテーマを設定し、上級生である卒業研究生や大学院生らと協力して自主的に研究活動を行ってください。</p> <p>また、各指導教員と親密に接触できる絶好のチャンスでもあります。それぞれの専門分野に対する理解を深めるためにも積極的に取り組むことが大切です。</p>
授業の概要	優れた建築作品の作品分析を行い、それに対する検討を参加者で行います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：建築作品の分析と解釈</b> 建築作品の図面分析、言説分析を試み、プレゼンテーションします。それを踏まえて、建築作品の特徴を解釈します。その解釈の妥当性に関して協議を行います。	<b>建築作品分析</b> 授業で解説された作品分析の説明を踏まえ、再度検証する(2h・2h)
<b>第2週：建築作品の分析と解釈</b> 建築作品の図面分析、言説分析を試み、プレゼンテーションします。それを踏まえて、建築作品の特徴を解釈します。その解釈の妥当性に関して協議を行います。	<b>建築作品分析</b> 授業で解説された作品分析の説明を踏まえ、再度検証する(2h・2h)
<b>第3週：建築作品の分析と解釈</b> 建築作品の図面分析、言説分析を試み、プレゼンテーションします。それを踏まえて、建築作品の特徴を解釈します。その解釈の妥当性に関して協議を行います。	<b>建築作品分析</b> 授業で解説された作品分析の説明を踏まえ、再度検証する(2h・2h)
<b>第4週：建築作品の分析と解釈</b> 建築作品の図面分析、言説分析を試み、プレゼンテーションします。それを踏まえて、建築作品の特徴を解釈します。その解釈の妥当性に関して協議を行います。	<b>建築作品分析</b> 授業で解説された作品分析の説明を踏まえ、再度検証する(2h・2h)
<b>第5週：建築作品の分析と解釈</b> 建築作品の図面分析、言説分析を試み、プレゼンテーションします。それを踏まえて、建築作品の特徴を解釈します。その解釈の妥当性に関して協議を行います。	<b>建築作品分析</b> 授業で解説された作品分析の説明を踏まえ、再度検証する(2h・2h)
<b>第6週：建築作品の分析と解釈</b>	<b>建築作品分析</b>

建築作品の図面分析、言説分析を試み、プレゼンテーションします。それを踏まえて、建築作品の特徴を解釈します。その解釈の妥当性に関して協議を行います。		授業で解説された作品分析の説明を踏まえ、再度検証する(2h・2h)
<b>第7週：建築作品の分析と解釈</b> 建築作品の図面分析、言説分析を試み、プレゼンテーションします。それを踏まえて、建築作品の特徴を解釈します。その解釈の妥当性に関して協議を行います。		<b>建築作品分析</b> 授業で解説された作品分析の説明を踏まえ、再度検証する(2h・2h)
<b>第8週：建築作品の分析と解釈</b> 建築作品の図面分析、言説分析を試み、プレゼンテーションします。それを踏まえて、建築作品の特徴を解釈します。その解釈の妥当性に関して協議を行います。		<b>建築作品分析</b> 授業で解説された作品分析の説明を踏まえ、再度検証する(2h・2h)
<b>第9週：建築作品の分析と解釈</b> 建築作品の図面分析、言説分析を試み、プレゼンテーションします。それを踏まえて、建築作品の特徴を解釈します。その解釈の妥当性に関して協議を行います。		<b>建築作品分析</b> 授業で解説された作品分析の説明を踏まえ、再度検証する(2h・2h)
<b>第10週：建築作品の分析と解釈</b> 建築作品の図面分析、言説分析を試み、プレゼンテーションします。それを踏まえて、建築作品の特徴を解釈します。その解釈の妥当性に関して協議を行います。		<b>建築作品分析</b> 授業で解説された作品分析の説明を踏まえ、再度検証する(2h・2h)
<b>第11週：建築作品の分析と解釈</b> 建築作品の図面分析、言説分析を試み、プレゼンテーションします。それを踏まえて、建築作品の特徴を解釈します。その解釈の妥当性に関して協議を行います。		<b>建築作品分析</b> 授業で解説された作品分析の説明を踏まえ、再度検証する(2h・2h)
<b>第12週：建築作品の分析と解釈</b> 建築作品の図面分析、言説分析を試み、プレゼンテーションします。それを踏まえて、建築作品の特徴を解釈します。その解釈の妥当性に関して協議を行います。		<b>建築作品分析</b> 授業で解説された作品分析の説明を踏まえ、再度検証する(2h・2h)
<b>第13週：建築作品の分析と解釈</b> 建築作品の図面分析、言説分析を試み、プレゼンテーションします。それを踏まえて、建築作品の特徴を解釈します。その解釈の妥当性に関して協議を行います。		<b>建築作品分析</b> 授業で解説された作品分析の説明を踏まえ、再度検証する(2h・2h)
<b>第14週：建築作品の分析と解釈</b> 建築作品の図面分析、言説分析を試み、プレゼンテーションします。それを踏まえて、建築作品の特徴を解釈します。その解釈の妥当性に関して協議を行います。		<b>建築作品分析</b> 授業で解説された作品分析の説明を踏まえ、再度検証する(2h・2h)
<b>第15週：建築作品の分析と解釈</b> 建築作品の図面分析、言説分析を試み、プレゼンテーションします。それを踏まえて、建築作品の特徴を解釈します。その解釈の妥当性に関して協議を行います。		<b>建築作品分析</b> 授業で解説された作品分析の説明を踏まえ、再度検証する(2h・2h)
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「演習等形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー III：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	建築作品の分析を意欲的に行う。発表された作品分析の解釈を積極的に試みる。
<b>【知識・理解】</b>	建築家の図面解釈と言説解釈ができる。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	建築作品の分析を適切に絵と図と言葉でプレゼンテーションできる。また、質疑応答に適切に対応できる。
<b>【思考・判断・創造】</b>	社会的に認められる研究姿勢の訓練。実践的な建築設計活動を学ぶ。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			<b>40点</b>	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		<b>20点</b>		
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		<b>20点</b>		
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		<b>20点</b>		
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	決められた発表課題の準備を適切に行い、その内容を明確にプレゼンテーションする。プレゼンテーションされた成果物と発表姿勢を総合的に評価します。 [Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他(無形成果)	他者の作品分析に対して積極的に質疑を行う。